

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90241	芸術学研究	2単位 通年	1・2	講義	長嶺 亮子 (非)

■テーマ

「芸術」を言葉で記す方法を身につける。

■授業概要

学術論文を書く上で重要な、先行研究資料の検索と入手の方法、論文中での参考資料の提示方法、論文の構成方法といった基本ルールを学ぶ。また、プレゼンテーションやプログラムノート、作品解説といった、論文とは異なる「文章を簡潔にまとめる」方法を身につける。

■学習目標

論文執筆の基本ルールを理解した文章が書ける。

■授業計画・方法

芸術表現研究領域の学生を対象とする。授業は前期と後期あわせて 15 回とし、スケジュールおよび内容の詳細と回数は授業初日に受講生と相談した上で計画する。講義のほか、学生による演習を適宜おこなう。

1. 先行研究資料の検索と入手方法 (2 回程度)
2. 論文の構成、参考資料の提示方法 (3 回程度)
3. 文章の「ねじれ」を考える (3 回程度)
4. 調査の方法と手順 (2 回程度)
5. プレゼンテーション (3 回程度)
6. プログラムノートと作品解説の書き方 (2 回程度)

■成績評価の方法

【方法】出席および課題に基づき評価する。

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書、参考文献等

教科書は指定しない。必要に応じ授業毎にプリントを配付する。以下の文献を講読しておくことが望ましい。

- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術(講談社現代新書)』講談社、2002年。
- ・東京藝術大学大学院音楽研究科リサーチセンター『芸術実践領域(実技系)学位論文作成マニュアル』東京藝術大学大学院音楽研究科リサーチセンター、2013年。